

開拓にかけた熱き想いを訪ねて

市指定史跡

3 蝦夷地開拓移住隊士の墓

指定年月日 昭和31年3月10日
所在地 字勇払132番地の38
所有者 苫小牧市
管理者 苫小牧市教育委員会



蝦夷地開拓移住隊士の墓全景



東屋内の墓石の様子

に置かれ、商業上の物資の集積地となっていたことから始まりました。
寛政11(1799)年に江戸幕府は蝦夷地の警護と開拓のため、東蝦夷地を直轄にして交易所の直接経営に当たり、運上屋は会所と名称を改め、勇武津に本会所、千歳に売買会所が設けられました。

この勇武津の地は東西蝦夷地の分岐点に当たり、北前船航路、千歳越えなど川海領域の交通の要所として大いに栄えました。また、明治2(1869)年には開拓使出張所も設置されました。しかし、明治6(1873)年に開拓使出張所が勇武津から苫小



勇武津資料館

勇払ふるさと公園内にある勇武津資料館は、当時の勇払会所の外観を模して建設されたもの。勇武津資料館の展示を見ることで当時の様子を知ることができる

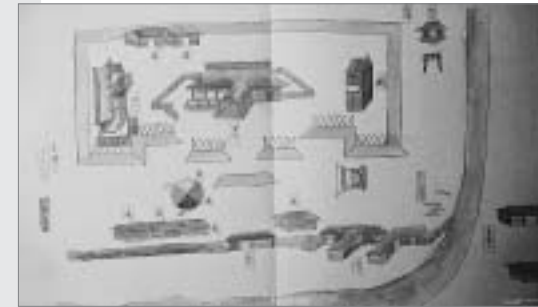
蝦夷地開拓移住隊士の墓は勇払ふるさと公園内に位置し、道苦小牧環状線を沿ノ端から勇払方向に進むと、勇武津資料館があり、その南隣にあります。蝦夷地開拓移住隊士とは、勇払会所に開拓した者と苫小牧の開拓に尽くした八王子千人同心のことをいいます。

八王子千人同心は寛政12(1800)年に蝦夷地を外国の脅威から守るため、そして、開拓のために武州八王子(現在の八王子市)から、組頭原半左衛門を隊長に弟新介を副士として同心子弟100人を伴って蝦夷地に入りました。半左衛門は50人を引き連れて白糠へ、新介は勇武津(現在の勇払)に入り、警備、開墾などに従事しました。さらに千人同心の河西祐助は原隊とは別に幕史の見習いとして妻子を連れて勇払会所に入りました。この八王子千人同心が勇払に入植したことが苫小牧市の開拓の第一歩となりました。

移住した同心たちは、過酷な自然環境の下で不毛の勇払原野の開拓はおもっぴいにかかせず、



勇払会所の景【安政元(1854)年 一瀬紀一郎 筆】



勇払会所配置図

石碑のある場所は文化元(1804)年に川東にあった会所を移転した場所で、当時の記録によると梁間5間(9.09m)×桁間18間(32.72m)×90坪(297.54㎡)の施設で、ほかに通行屋(宿泊所)3、板蔵4、長屋3棟があり、会所付の蝦夷船40、持府船2、川船40、馬船3艘を備え、支配人1、手伝い2、通訳2、番人24、馬引き1人のほか、医師などが常駐した堂々たる施設と人容を誇っていました。幕末には場所請負人の山田文右衛門の請負となり、イワシ漁で賑わい、繁栄を極めました。

2年目にして死亡するもの16人病にかかり帰郷するものを多数出し、入植4年目にして中止になりました。

この勇払原野での先人たちの熱い開拓精神と、血のにじむ苦勞の上に、約200年の時を経た現在の苫小牧が成り立っていると言っても過言ではありません。

この史跡には勇武津で亡くなった8人の千人同心と、河西祐助の妻、梅の墓が祀られ、苫小牧開拓の先駆者として手厚く保護されています。その名のおりこの場所にはお墓しかありませんが、この場所こそ、苫小牧開拓の熱き魂が眠る場所といえるのではないのでしょうか。

報文」として明治9(1876)年にアメリカで出版され、翌年には和訳されて開拓使から刊行になりました。
昭和37(1962)年6月、勇払中学校の北東隣接地より、一辺17m、高さ0.9mの台形の盛土の中央から、銅鉄を打った30.3cmの正方形の石柱が発見され、その存在が確認されました。現在のところ鶴川側の基点は不明ですが、この勇払基点は北海道開拓史上、測量史上貴重な史跡となっています。

現在の生活に重要である正確な北海道地図、その基点がこの地にあり、小さな石柱は北海道の歴史を語り続けているといえるでしょう。



三角測量法で作成された北海道地図

博物館展示の目標台と標石の模型

三角測量とは最初に2点間の距離を正確に測定し、三角形の性質を利用して他の点までの距離を計算する方法で、地図作りに利用された測量法です。ワツソンの後に測量を続けたデーは、三角測量法に天文学も取り入れ、勇払基点を北緯42度37分34秒、東経141度44分46秒、基線を14,868.2646mと精測しました。さらに北海道沿岸部も測量し、北海道三角測量報文を出版しました。報文には正確な北海道地図も掲載されています。

北海道地図の原点を訪ねて

道指定史跡

4 開拓使三角測量勇払基点

指定年月日 昭和42年3月17日
所在地 字勇払132番地の49
所有者 苫小牧市
管理者 苫小牧市教育委員会

蝦夷地開拓移住隊士の墓と同じ勇払ふるさと公園内の北西側に開拓使三角測量勇払基点がひっそりとあります。

この三角測量勇払基点は、三角測量法による北海道地図作成の原点となるもので大変貴重な史跡です。

開拓使は道路や鉄道建設、炭田や鉱山などの開発に向け、正確な北海道地図が必要のため、明治6(1873)年、アメリカ人ジェームス・アール・ワツソンを測量長に命じ、三角測量法による地図作りを始めました。ワツソンは当初石狩川上流に基線を定めようとしたが、



開拓使三角測量勇払基点全景



三角測量の基点であった石柱

適地がなく、勇払と鶴川間に基線を設置し、両基点に目標台と標石を建てて測量を開始しました。翌年にワツソンが陸軍省に転任したため、助手のモルレー・エス・デーが測量を継続し、さらに北海道沿岸部も測量しました。測量結果は「北海道三角測量

文化財巡りバスツアー

を実施します!!

申し込み先・詳細 文化振興課 ☎32-6752

市内にある国・道・市指定の文化財を巡り、貴重な文化財を直接見て、理解を深めるとともに、郷土の歴史などを感じてみませんか。

と き 9月11日(土) 12時30分~17時

訪問先 静川遺跡、開拓使三角測量勇払基点、蝦夷地開拓移住隊士の墓、勇払会所の跡、勇武津資料館、博物館
詳しい日程は参加者に後日送付します

料 金 無料

定 員 45人 申し込み順

申し込み 7月21日(水) 9時から電話で文化振興課 ☎32-6752へ
定員になり次第締め切ります

平成21年度実施の様子



勇払基点訪問の様子 静川遺跡訪問の様子